

基本目標 3

産業・経済

地域に根ざした産業で
にぎわいと豊かさあふれるまち

館山のまちづくり絵画コンクール 優秀賞作品



北条小学校3年 なかむら 中村 まこ 眞子 「花火大会」

館山の花火大会はとてもキレイです。とくに水中花火はすごい。
ずっと続けてほしいと思いました。

※学年は平成 27 年度時点

第1節 観光の振興

- (1) 海の魅力を活かした観光振興
- (2) 観光の魅力を高める資源の活用
- (3) ブランド化の推進
- (4) 観光PRの強化

第2節 農水産業の振興

- (1) 農水産業の活性化
- (2) 農水産業の担い手育成支援
- (3) 農業基盤の整備
- (4) 水産業の基盤整備

第3節 商工業の振興

- (1) 商工業の振興

第4節 新たな雇用の創出と就業支援の強化

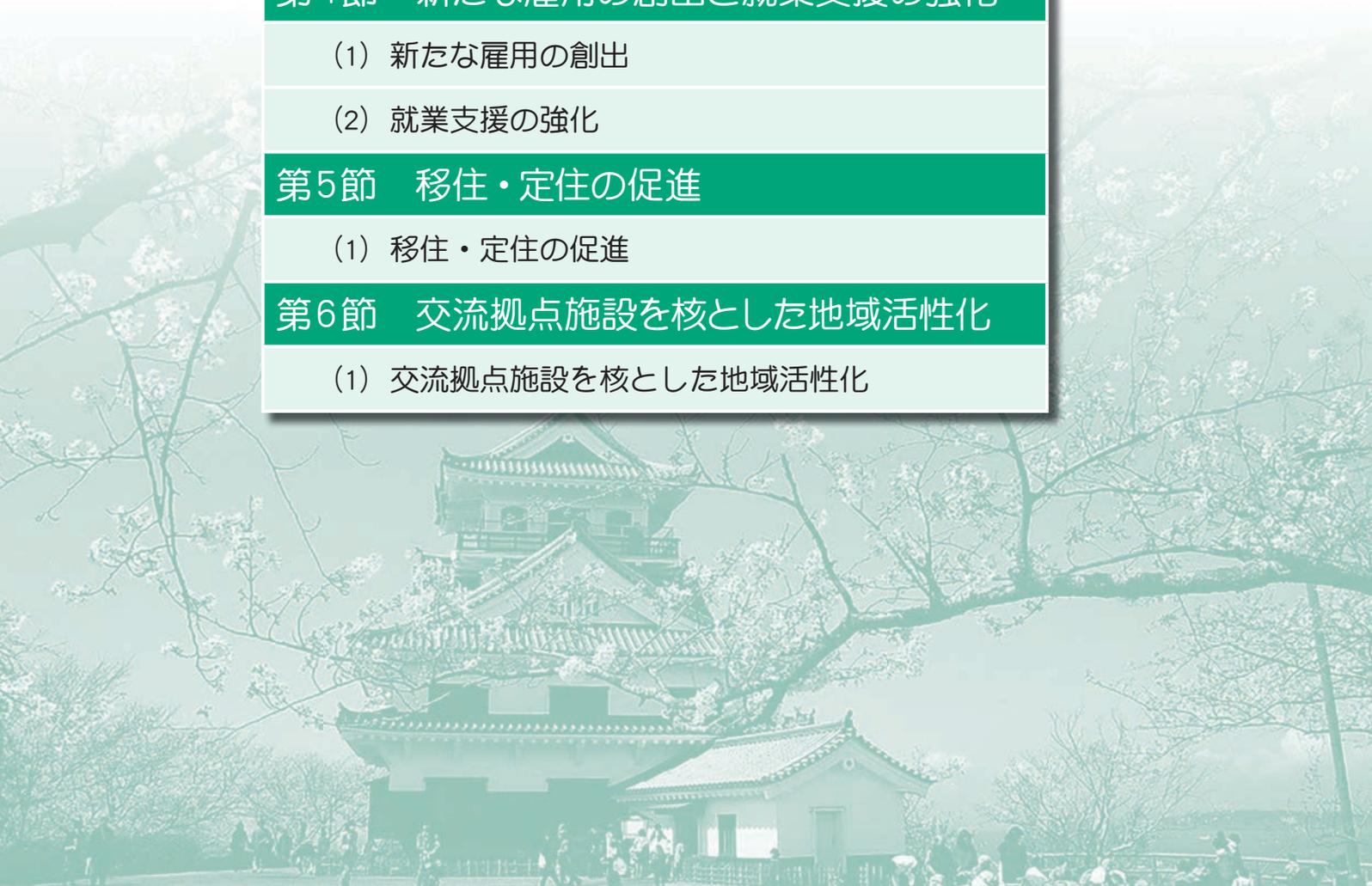
- (1) 新たな雇用の創出
- (2) 就業支援の強化

第5節 移住・定住の促進

- (1) 移住・定住の促進

第6節 交流拠点施設を核とした地域活性化

- (1) 交流拠点施設を核とした地域活性化



第 1 節 観光の振興

現状と課題

●館山市は、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、房州館に代表される新鮮な海産物や豊かな大地にはぐくまれた多彩な農産物、加えて、戦国大名里見氏ゆかりの史跡や寺社仏閣、首都東京防衛の歴史を物語る戦争遺跡、さらには、温泉や魅力ある海を活かしたスポーツ観光等まで、多種多様な観光資源を有しています。また、半島性という地理的特性をもちながら、平成9年に東京湾アクアライン、平成19年に東関東自動車道館山線等が全線開通したことにより、アクセス性が飛躍的に向上し、“東京都心に近い自然豊かな観光地”としての価値を高めており、今ある地域資源を最大限に活かし、さらなる観光振興が望まれます。

●館山市では、海の玄関口として、平成22年に完成した「館山夕日栈橋」や平成24年にオープンした交流拠点「渚の駅」たてやま、そして、平成26年に完成した「渚の駅」たてやま商業施設棟などを核として、館山湾を活用した「海辺のまちづくり」を進めています。市内外から高く評価されている館山の海の魅力に、さらなる磨きをかけていくことが、館山の観光振興の上では、大変重要です。

●海水浴が中心だった海辺の楽しみ方は、時代とともに移り変わり、多様化してきています。そのような中、平成27年7月に、千葉県で初となる『安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例』を制定し、さまざまな目的をもって海水浴場を訪れる観光客等が、互いを尊重し、快適に楽しむことができる環境づくりへの取組をはじめました。今後も関係機関と連携し、海水浴場の利用者が安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に努め、館山の海のさらなるイメージアップを図っていく必要があります。



海・浜 合同パトロール

●観光客数は東日本大震災前の状況に戻ったものの、宿泊客数は横ばい状態にあります。また、館山市の観光客は、春先と夏に集中しており、年間を通じた集客が必要です。今後は、安房地域一体となった広域連携により、安房地域をひとまとまりの旅行目的地としてPRすることで、滞在型の観光地づくりをさらに推進し、宿泊客数の増加につなげていくことが求められています。さらに、NPO法人等、関係団体との連携を強化し、海と山の豊かな自然を活かした体験型ツーリズムの促進や新たな体験観光メニューの開発、観光資源の組み合わせ等により、リピーターの増加と滞在時間の延長につなげていくことも重要です。

●館山市がメディアに取り上げられる機会を戦略的に増やし、旬な観光情報をより効果的に発信・PRするとともに、館山市のマスコットキャラクター「ダッペエ」のさらなる活用が望まれます。

●「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催にあたり、空の玄関口である成田空港を有する千葉県は、地理的優位性から、外国人観光客の大幅な増加が見込まれます。こ

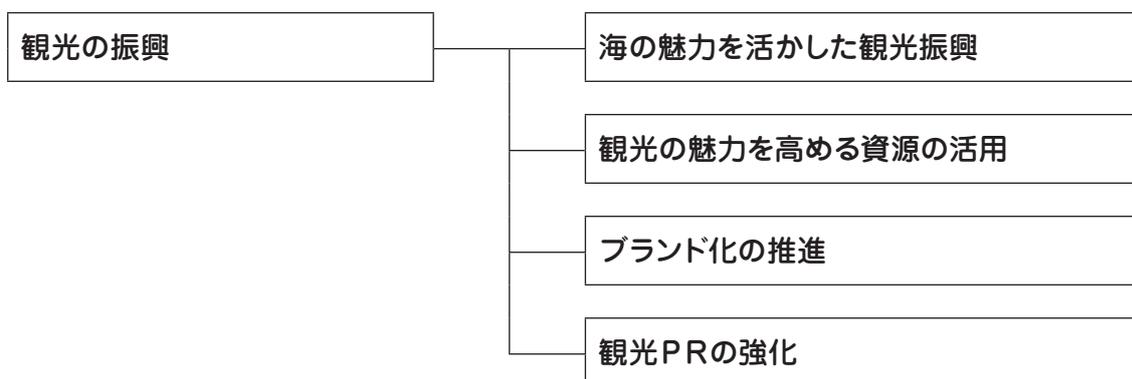
の機会を逃さず、外国人観光客を安房地域へ呼び込むため、受け入れに必要な整備を早急に行う必要があります。

●館山市は、飲食サービス業や宿泊サービス業など、観光関連産業に関する求人が極めて多いものの、事業者等が求める人材と求職者の希望する待遇や就業形態とにミスマッチがあり、十分な人材確保が難しい状態にあります。今後、さらなる生産年齢人口の減少が見込まれる中、観光関連事業従事者の確保は必要不可欠です。

基本方針

- 館山湾をはじめ、「渚の駅」たてやま、「館山夕日栈橋」等を活かした観光施策の充実を図り、来訪者の増加につなげます。
- 海水浴場の利用者が安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に努めます。
- リピーターや宿泊客の増加を目的として、市内の事業者や各種団体、近隣市町等の多様な主体と連携し、来訪者のニーズに対応した満足度の高い観光地を目指します。
- 外国人観光客の受け入れ態勢の促進を図ります。
- 農産物や海産物のブランド化を推進するとともに、さまざまな観光資源を組み合わせたPRにより、「館山ブランド」の魅力向上を図ります。
- 特色ある観光イベントの実施や、パブリシティによる効果的・戦略的な情報発信により、館山市の知名度向上や交流人口の増加に努めます。

施策の体系



高速ジェット船「セブンアイランド虹」

施策の展開

(1) 海の魅力を活かした観光振興

計画事業名	事業内容	担当課
『館山湾振興ビジョン』の推進	<p>「館山夕日栈橋(館山港多目的観光栈橋)」の利活用など、『館山湾振興ビジョン』に示された7つの戦略を推進するとともに、必要な見直しを行います。</p> <p>【館山湾振興ビジョンの7つの戦略】</p> <p>①館山港多目的観光栈橋利活用プロジェクト ②交流拠点“渚の駅”を含めた交流ゾーン形成プロジェクト ③プレジャーボート利活用プロジェクト ④ビーチ利用促進モデル事業および那古船形海岸事業推進プロジェクト ⑤船形漁港・船形地区活性化プロジェクト ⑥館山湾及び館山市沿岸域の海上・陸上交通網の構築プロジェクト ⑦館山湾多目的(防災・安全・環境)利用プロジェクト</p>	みなと課
海路の充実	旅客船の定期航路化・寄港船舶の増加に向けた取組を行うとともに、季節運航の利用客増加に向けた積極的なPRを行います。	みなと課
海辺のまちづくり推進事業	館山港を拠点に、ウミホテル観覧会や釣り大会など、海を活用したイベントを開催し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。	みなと課
海・浜空間利用者のマナー向上	千葉海上保安部館山分室、千葉県警察館山警察署、千葉県、民間団体等の関係機関と連携し、安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に向けた取組を実施します。 また、海・浜空間利用者のマナー向上を図るため、『安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例』及び「海・浜ルールブック」の普及・啓発に努めます。	みなと課
海水浴場の開設	館山市の重要な観光資源である美しい砂浜・海岸を維持するとともに、海水浴客が安心・安全に利用できる海水浴場を開設します。	商工観光課
海岸利活用事業	北条海岸芝生広場などの海浜エリアを活用し、美と健康・食を提供するサービススペースを設け、海岸や砂浜のにぎわいを創出します。	商工観光課
特定地域振興重要港湾館山港の整備・利用の促進	旅客船や多様な船舶の寄港にかかわるポートセールスを推進するとともに、「館山夕日栈橋」の整備拡充に向けて、国・県への要望活動を行います。	みなと課

※ 観光関連事業従事者の確保に関する課題については、「計画事業:地域のニーズをとらえた就業支援強化」(P.100)の中で取り組むこととします。

(2) 観光の魅力を高める資源の活用

計画事業名	事業内容	担当課
新観光立市たてやま行動計画の策定	『観光立市たてやま行動計画』の見直しを行い、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を見据えながら、観光振興諸施策を推進します。	商工観光課
観光産業活性化支援事業	館山市観光協会、館山市温泉事業組合に対する支援を行い、ニーズに合った観光振興施策と新たな観光メニューの開発を促進します。	商工観光課
観光広域連携	近隣市町と連携し、南房総観光連盟、南房総地域観光圏整備推進協議会、宿泊・滞在型観光推進協議会による広域的な観光振興を図ります。	商工観光課
外国人観光客受け入れ態勢等の整備	Wi-Fi整備や多言語表記案内板の設置、ホームページの充実等を推進するとともに、千葉県との連携等による海外へ向けた積極的な情報発信や民間事業者による外国人観光客受け入れ態勢の促進を図ります。	商工観光課
体験型ツーリズムの促進	海や山の恵まれた自然、歴史や戦争遺跡等の文化財、温暖な地ではぐくまれる農産物、豊かな海に生息する魚介類など、館山市が有する多様な観光資源を活用し、体験型ツーリズムの促進と積極的な情報発信を図ります。	商工観光課
グリーン・ブルーツーリズムの推進	農作業体験や市民農園等の観光農業、観光定置網や海中観光船等の観光漁業、さらにはダイビング体験等のマリンスポーツなどとも連携した体験観光を推進し、交流人口の増加に努めます。	農水産課
観光施設管理事業	来訪者が迷わず安心して観光施設巡りができるよう、観光施設案内サイン等の充実を図ります。 また、来訪者が快適に過ごせるよう、公衆トイレの美化及び洋式化を推進します。	商工観光課



春の南房総サイクリング



田のくろ大学校

(3) ブランド化の推進

計画事業名	事業内容	担当課
観光物産ブランド化の推進	ご当地グルメや房州鮎、花摘み、イチゴ狩り等の優れた観光物産のさらなるPRに加え、完熟イチジク狩りやフルーツジャム等の新たな観光物産のブランド化を推進します。	商工観光課
観光資源の組み合わせによる館山ブランドの向上	海や花などの自然、歴史文化遺産、体験型観光、食、温泉等、優れた観光資源を組み合わせることでPRすることにより、観光地としての「館山ブランド」の魅力を向上させ、リピーターや宿泊客の増加を目指します。	商工観光課
「館山ふるさと大使」・「館山ふるさと特使」制度による館山市のPR及び域内活動の活性化	館山市出身または館山市にゆかりのある国内外で活躍している方に大使・特使を委嘱し、館山市のPRやイベントへの参加等を通じた域内活動の活性化を図ります。	企画課

(4) 観光PRの強化

計画事業名	事業内容	担当課
観光イベント事業	「たてやま海まちフェスタ」や「館山湾花火大会」を中心とした館山観光まつり、「南総里見まつり」等の観光イベントを民間団体と連携し、特色あるイベントとして開催します。	商工観光課 みなと課
観光情報の発信・PR	メディアへの積極的なアプローチやフィルムコミッションの支援、観光パンフレットの作成、各種キャンペーンの実施等により、館山市の優れた観光資源の情報発信を強化し、観光客数の増加に努めます。	商工観光課
マスコットキャラクター活用によるプロモーション	マスコットキャラクター「ダッペエ」による市内外のイベントやキャンペーン、メディア等への出演、ブログやツイッターでの積極的な情報発信を通じて、効果的なプロモーションを行い、館山市のイメージアップを図ります。	商工観光課
館山の魅力発信事業	館山市の魅力を市民等との協働により掘り起こし、動画・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を主とした魅力発信を行います。	企画課 情報課

館山ふるさと大使「さかなクン」の
“渚の駅”たてやま名誉駅長就任
(平成27年12月25日)



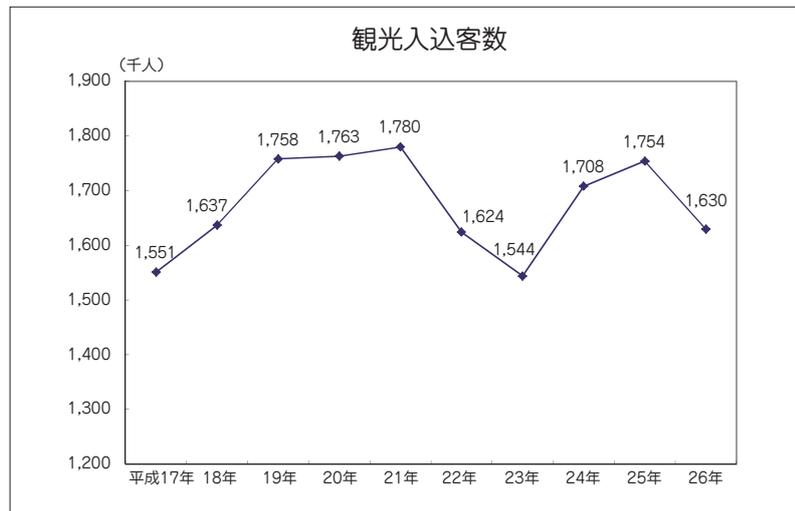
さかなクンギャラリーのオープン



さかなクンによる壁画

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
観光入込客数	163 万人	200 万人
宿泊客数	38 万人	50 万人
海水浴場入込数	6.9 万人	8.3 万人
観光イベント来場者数	24 万人	26 万人
外国人宿泊客数	759 人	2,000 人
体験農漁業施設数	16 施設	20 施設



館山湾花火大会

第2節 農水産業の振興

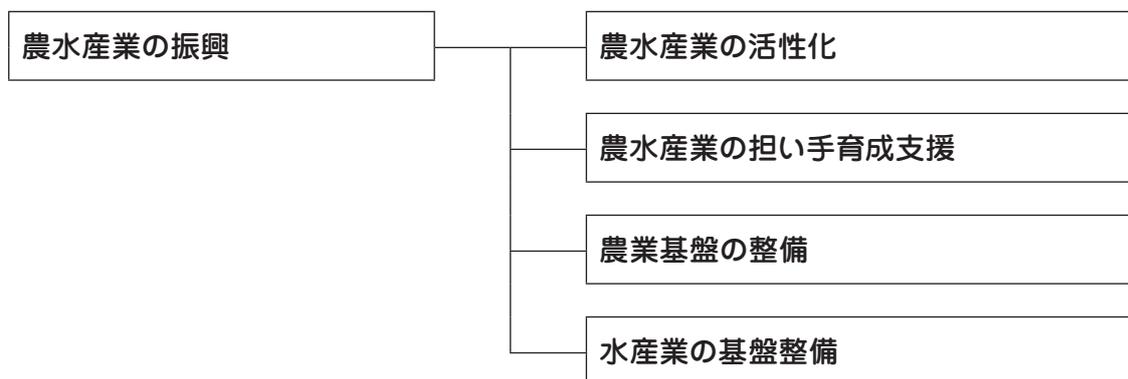
現状と課題

- 館山市は、温暖な気候と緑豊かな大地、沖合いには黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有することで、花や果実、野菜などの多彩な農産物や新鮮な海産物など、自然の恵みを楽しんできました。「西岬ひまわり」や「房州いちご」、「神戸レタス」、「房州枇杷」、「房州鮎」などに代表されるブランド化された農水産物については、市民意識調査でも高く評価され、いずれも重要な観光資源となっています。
- 農業においては、農業従事者の高齢化と減少が進んでおり、後継者の育成・確保が喫緊の課題となっています。しかし、近年の就農形態は、Uターン者や新規参入者、雇用就農者の増加など、従来と大きく変化しており、次世代を担う新たな就農者を確保するためには、就農環境の整備が必要であり、また、それらの新規就農者を定着させていくためには、関係機関及び地域農業者等が一体となり、多面的な支援を継続して行っていくことが重要です。
- 農業の担い手の減少は、耕作放棄地の拡大にもつながっています。また、有害鳥獣の被害が年々深刻化しており、農業経営に大きな打撃を与えています。農業の振興のためには、これまでの生産体制を維持するだけでなく、有害鳥獣対策の実施や地域内に分散した耕作放棄地の集約化・有効活用による農業生産規模の拡大、飼料用米等の戦略作物の生産による水田の活用など、さまざまな取組により生産者の所得向上と経営安定化を図る必要があります。
- 水産業においては、漁獲量の減少や魚価の低迷、漁業従事者の減少等により、市内漁業協同組合の合併が検討されています。漁業協同組合の経営基盤の強化、漁港の集約による安全性の確保、新規漁業就業者の増加に向けた取組等により、漁港を中心としたにぎわいの創出、地域の活性化を図っていくことが求められています。

基本方針

- 農水産物の販路拡大や地域ブランド化の確立に取り組み、農水産物の収益拡大と農水産業の経営安定化を目指します。
- 農水産業の持続的な発展のため、担い手の育成や経営強化に対する支援を継続して行います。
- 農業生産基盤の整備や農地の維持保全のための取組を強化し、生産者の所得向上と経営安定化を目指します。
- 漁業協同組合や漁業者に対する経営安定化支援と水産資源の維持・増大に向けた支援を継続して行います。

施策の体系



施策の展開

(1) 農水産業の活性化

計画事業名	事業内容	担当課
農産物のブランド化推進等による農業経営安定化支援事業	県やJA等、関連機関と連携し、農産物のブランド化の推進や高品質化、販路拡大の支援、園芸生産施設等整備支援により、農業経営の安定化を目指します。	農水産課
農水産物の6次産業化の推進	農漁業従事者が主体となり、加工・販売等の事業者と連携しながら、農水産物等の地域資源の付加価値向上を図る6次産業化を積極的に推進します。	農水産課
地産地消の推進	地域で生産されたものを、その地域で消費する「地産地消」を推進し、地域の農水産業と関連産業の活性化を図ります。	農水産課 (食のまちづくり担当)
船形漁港周辺の活性化	都市計画道路船形館山線（船形バイパス）の整備にあわせ、館山市の北の玄関口の核となる船形漁港周辺の活性化について、検討を進めます。	農水産課



センリョウの出荷準備



献上いちご選果式

(2) 農水産業の担い手育成支援

計画事業名	事業内容	担当課
新たな農業の担い手の育成・確保	認定新規就農者の目標達成のためのフォローアップを行うとともに、各種補助金等を活用し、新たな担い手の育成・確保を図ります。	農水産課
農業の担い手育成・確保と組織的な営農スタイルへの後押し	認定農業者や新規就農者等の育成・確保に加え、企業参入、農業法人化、地域ぐるみの組織的な農業経営体などの育成・確保を図るとともに、定年後のリタイア層や都市部からの移住者などの多様な担い手の育成・確保を図ります。	農水産課
地域農業活動支援事業	高齢化と後継者不足を抱える農村環境の改善、水路や農道等の維持管理を継続していくため、多面的機能支払制度の活用や小規模土地改良事業、補修用材料の交付を行います。	農水産課
水産振興支援事業	水産業の振興と漁業経営の安定化のため、漁業後継者の育成や栽培漁業の実践、水難事故の救済等を行っている各種水産業関連団体を支援します。	農水産課

(3) 農業基盤の整備

計画事業名	事業内容	担当課
環境と調和した農業の推進	化学肥料や農薬の使用低減、農業用廃プラスチックの適正処理など、環境との調和に配慮した農業を推進します。	農水産課
畜産振興支援事業	畜産業者に対し、酪農ヘルパーの利用普及促進や補助事業の活用による畜産施設等の整備促進、家畜伝染病の予防、乳牛の飼育・改良指導等を行います。	農水産課
有害鳥獣対策事業	イノシシ等の有害鳥獣による農作物の被害を防ぐため、館山有害鳥獣対策協議会の活動を支援するとともに、県及び近隣市町と連携し、広域的な取組を検討するほか、防護柵の設置や狩猟免許取得を促す取組を行います。	農水産課
農業生産基盤の整備	農業施設の維持管理や農地の区画整理を行い、農業の生産性の向上を図ります。	農水産課
農地の保全と有効活用	耕作放棄地の再生・有効活用・発生防止に努めるとともに、農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積・集約化を促進し、生産者の所得向上や農村環境の維持保全を図ります。	農水産課
農業経営安定対策の推進	農業経営の合理化や近代化を図る農業者に対し、農業近代化資金利子補給や農業経営基盤強化資金利子補給等による経営安定化支援を行います。	農水産課
中山間地域の活力維持	山間部などを拠点とする農業者等に直接支払交付金を交付し、農業生産活動の維持や農地の多面的な機能の確保に努めます。	農水産課

(4) 水産業の基盤整備

計画事業名	事業内容	担当課
漁業経営支援事業	市内5漁業協同組合の合併促進や新規漁業就業者の増加に向けた取組、漁業施設の近代化・省力化や共済制度への補助等による漁業者への経営安定化支援を行います。	農水産課
栽培漁業支援事業	稚貝や稚魚の放流、藻場調査や磯根漁場の改良、養殖漁業の導入に向けた取組を支援し、魚介類の安定供給の確保を目指します。	農水産課
漁港利活用事業	漁港の集約の検討や漁港機能保全計画の策定、漁港維持工事を実施するとともに、県営漁港改修工事負担金を支出します。	農水産課

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
地産地消推進店	137店	170店
認定新規就農者数	2人	12人
認定農業者数	123人	135人
市内農業法人数	14法人	20法人
農地中間管理事業による貸借農地	0.2ha	3.2ha

地産地消推進の取組



平成 26 年度 受賞者のみなさん



平成 26 年度 グランプリ
『畑の王様 春の巻・菜の花の香りソース』
(考案者) 加藤久美子さん

第 3 節 商工業の振興

現状と課題

- 館山市は、安房地域の経済と文化の中心地であり、特に商業は、地域経済を支える重要な役割を果たしてきました。しかし、近年、人口減少や消費者ニーズの多様化、大型商業施設の郊外進出等により、中心市街地が空洞化し、商店街の空き店舗が増加しています。
- 館山市では、商店街の中核コミュニティ施設として、平成 22 年度に「まちなか交流館」をオープンし、平成 26 年度には「地域おこし協力隊」を活用した長須賀地区のまちなか再生事業を実施するなど、地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援しています。今後もこれらの取組を継続するとともに、商店街の環境整備や地域住民を呼び込む仕掛けづくり、空き店舗の活用等についての支援が求められています。
- 平成 15 年に、千葉県で初めて経済産業大臣指定の伝統的工芸品として認定を受けた「房州うちわ」は、職人の高齢化や後継者不足が喫緊の課題となっています。伝統工芸の維持・発展のため、早期に後継者の育成に取り組む必要があります。
- 商工業振興については、館山商工会議所が主導的な役割を果たしていますが、市内の商工関係団体は、いずれも会員数が減少しています。各団体との連携を深め、組織強化に向けた支援を継続して行うとともに、産業振興に関連する諸制度を活用し、地域経済の発展につなげていくことが重要です。



房州うちわ従事者入門講座

基本方針

- 地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援し、地域経済の活性化・発展を目指します。

施策の体系



施策の展開

(1) 商工業の振興

計画事業名	事業内容	担当課
地域商業活性化支援事業 (中心市街地の活性化)	まちなか再生事業や商店街の環境整備の推進・支援、「まちなか交流館」の積極的な活用など、市・商工会議所・商店街・「地域おこし協力隊」等とが連携し、魅力ある商店・商店街づくりやにぎわいのあるまちづくりの形成を目指します。	商工観光課 (雇用定住担当)
中小企業融資事業	市内金融機関と連携し、中小企業の資金融資が円滑に受けられ、経営の安定化につなげられるよう、市の各種融資制度により支援します。	商工観光課 (雇用定住担当)
伝統的工芸品活性化事業	地域を代表する伝統的工芸品である「房州うちわ」や「唐棧織」の振興を図ります。 房州うちわ振興協議会に対して支援し、房州うちわの伝統工芸士の後継者育成・確保を目指します。	商工観光課 (雇用定住担当)
商工関係団体支援事業	館山商工会議所・館山市商店会連合会・館山たばこ販売組合に対して助成し、団体の団結力・組織力の育成・強化を図り、各団体が地域経済発展の主導的な役割を果たすよう支援します。	商工観光課 (雇用定住担当)
半島振興法による諸制度の利活用の検討	『半島振興法』にかかる制度改正等を注視し、活用可能な助成制度の調査研究を行うとともに、民間企業等への制度周知による積極的な活用を推進します。	企画課

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
空き店舗数	414 店舗	410 店舗



まちなか交流館

第 4 節 新たな雇用の創出と就業支援の強化

現状と課題

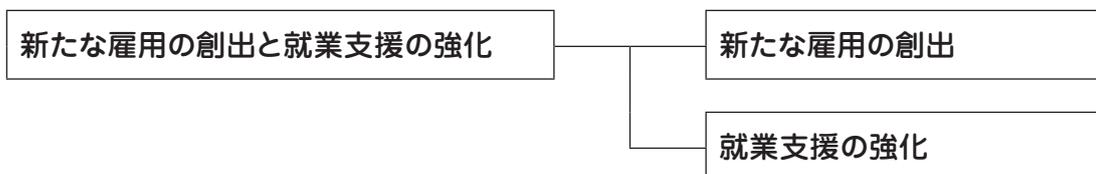
- 雇用の場の創出には、これまで進めてきた企業誘致を積極的に推進してだけでなく、創業支援などによる地域に根ざした多様な就業の場の確保が重要となっています。
- 館山市を管轄区域に含むハローワーク館山は、県内でも比較的高い有効求人倍率を有し、地域の産業構造を反映して、飲食業、観光業をはじめとしたサービス業や医療・福祉に関連した求人が多くなっています。しかし、特定の職種、雇用形態の求人に偏っているため、事業者等が求める人材と求職者の希望する待遇や就業形態にミスマッチが生じており、人材確保の面からも大きな課題となっています。今後、さらなる生産年齢人口の減少が見込まれる中、地域経済を維持していくためには、観光関連事業従事者や医療・福祉関連事業従事者の確保は必要不可欠です。館山市では、平成 25 年度から、ハローワークや近隣市町と連携し、地元での就職希望者と企業を引き合わせる新しい就業支援として、ジョブサポート事業を実施しています。今後も、地域の雇用ニーズをとらえた就業支援の強化が求められています。
- 医療・介護の現場における慢性的な人材不足に対し、館山市では、平成 27 年度から介護人材の確保に向けた支援をスタートさせ、高齢者福祉・介護サービスの充実に努めています。今後も、安房医療福祉専門学校への支援とあわせ、医療・介護・福祉人材の確保に向けた取組を進め、就業促進につなげていくことが重要です。



基本方針

- 企業誘致の推進、創業支援などにより、地域における安定した雇用機会の創出を図ります。
- 求人・求職のミスマッチ解消や医療・介護・福祉人材確保に向けた支援を行い、地域の雇用ニーズをとらえた就業支援を図ります。

施策の体系



施策の展開

(1) 新たな雇用の創出

計画事業名	事業内容	担当課
新たな雇用の創出	雇用の需要と供給のバランスを整え、多様な職種選択等に対応できる雇用対策を推進し、安定した雇用の場の創出に努めます。	商工観光課 (雇用定住担当)
企業誘致推進事業	企業誘致のためのトップセールスや市内企業の情報収集、市内進出希望の企業へのフォローアップを行うとともに、事業者に対する支援を行います。	商工観光課 (雇用定住担当)
創業促進支援事業	ワンストップ相談窓口の設置、創業支援セミナーの開催、起業支援補助金や融資制度などによる支援を行い、創業者数の向上を目指します。	商工観光課 (雇用定住担当)

(2) 就業支援の強化

計画事業名	事業内容	担当課
地域のニーズをとらえた就業支援強化	ハローワークや近隣市町と協力し、地域の雇用ニーズをとらえた求職セミナーの開催や求人情報の提供等により、求人・求職のマッチング強化を図るとともに、働きやすい環境整備と地域の人材育成について、関連機関・事業者と連携し、検討します。	商工観光課 (雇用定住担当)
介護・福祉人材の確保に向けた支援	これからの超高齢社会に対応し、各介護施設等で不足する介護・福祉人材の確保に向けた支援を行うことにより、高齢者福祉・介護サービスの充実を図ります。	高齢者福祉課

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
求職者を対象としたセミナー開催数	2回	2回
企業誘致トップセールス件数	4件	5カ年累計 延べ100件
起業・創業支援者数	8人	5カ年累計 延べ150人
起業・創業者数	6人	5カ年累計 75人

第 5 節 移住・定住の促進

現状と課題

- 館山市では、少子高齢化の進行により、死亡数が出生数を上回る「自然減」が長期にわたり継続しており、その傾向は強まっています。また、進学や就職等による若年層の流出が多く、結婚・出産適齢期の年代層の減少は、さらなる出生数の減少につながっています。
- 移住者は徐々に増加しており、平成 26 年度には 23 世帯・58 人の移住がありました。特に 30～40 歳代の働き盛り世代の転入が増えてきており、移住・定住の促進は、人口減少を抑制し、まちの活力を維持するために、大変重要な取組となっています。今後は、移住希望者の受け入れ態勢を強化するとともに、若者に訴えかける地域の魅力づくり、転出者の抑制、UJIターン者や孫ターン者、二地域居住者の増加に向けた取組を強化し、地域の活性化につなげていくことが重要です。

基本方針

- 若者世代の転出抑制や移住・定住を促進する取組を強化し、人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図ります。

施策の体系

移住・定住の促進

移住・定住の促進



移住相談



古民家ツアー

施策の展開

(1) 移住・定住の促進

計画事業名	事業内容	担当課
移住・定住促進事業	NPO及び関連機関と連携した移住・定住相談窓口の充実、関連イベントの実施、最新地域情報の提供、空き家バンク制度の利用促進など、移住・定住の促進につながる支援策の充実を図ります。	商工観光課 (雇用定住担当)
サテライトキャンパス誘致事業	地域の教育力の向上(ブランド化)に向けて、館山市内に施設を有する大学等に対し、「サテライトキャンパス」誘致についての働きかけを行います。	企画課
市内高校ブランド化支援事業	市内高校のブランド化に向けた高校との意見交換を実施するとともに、高校生の学力向上や地元就職の促進に対する支援を検討します。	企画課
同窓会支援事業	館山市で生まれ育った人のUターン促進等のため、「30歳」という節目に、同級生との再会や新たな出会いの場を作り出す同窓会の開催を支援します。	企画課
出会い・婚活支援事業	独身男女の出会いの場を提供し、地域の活性化や移住・定住の促進、結婚奨励による少子化対策を図ります。 また、「恋人の聖地／鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山」を活用した事業を実施します。	企画課

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
移住世帯数・移住者数	23世帯・58人	5カ年累計 100世帯・300人
出会い・婚活支援事業開催数	1回/年	1回/年
「恋人の聖地」協力団体・事業者数	—	25団体

「恋人の聖地」
鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山
(平成27年7月1日認定)



城山公園



館山夕日栈橋



洲埼灯台

第 6 節 交流拠点施設を核とした地域活性化

現状と課題

●千葉県から譲渡された旧安房博物館を利活用し、海と陸とを結ぶ交流拠点として整備された「渚の駅”たてやま」は、海辺のにぎわい空間の創出を目的とする「みなとオアシス」（国土交通省認定）に登録されています。平成 26 年度に商業施設棟が完成し、飲食物販機能が整備されたことから、来館者数は飛躍的に増加しています。今後は、駐車場不足への対応や、経年劣化が著しい施設の改修、効率的な施設の管理・運営方法等を検討するとともに、知名度向上とイメージアップにより、さらなる来館者数の増加につなげていく必要があります。また、観光客の市内周遊性を高めるため、観光情報の拠点として、旬の観光情報の提供が望まれます。

●温暖な気候と豊かな自然に恵まれた館山市は、食材の宝庫でもあり、“食”の豊かさは市民にも都市部の住民にも高く評価されています。地域の農水産資源を活用した「食のまちづくり」は、農水産業の振興だけでなく、地域の魅力向上や観光客誘致、雇用の創出にもつながる取組です。今後は「食のまちづくり」の拠点整備を進めるとともに、その周辺に所在する国指定史跡「里見氏城跡 稲村城跡」や旧館山工業団地用地を活用し、産業・歴史・自然を連携させた内陸の交流拠点『（仮称）里見のさと三角構想』の推進、並びに、「渚の駅”たてやま」と「館山船形漁協ふれあい市場」、「（仮称）里見のさと」、「道の駅 南房パラダイス」を中心とした「平砂浦地域」などの各地域の拠点を結ぶネットワークづくりを前進させ、館山市全体としての一体的な活性化が望まれます。

基本方針

- 交流拠点「渚の駅”たてやま」の機能強化と魅力向上により、来館者数の増加を図るとともに、観光情報の拠点として、旬の観光情報を提供します。
- 地域の農水産資源を活用した「食のまちづくり」を推進し、地域産業の活性化と雇用の創出につなげます。



“渚の駅”たてやま

施策の体系

交流拠点施設を核とした地域活性化

交流拠点施設を核とした地域活性化

施策の展開

(1) 交流拠点施設を核とした地域活性化

計画事業名	事業内容	担当課
交流拠点「渚の駅」たてやま機能強化事業	「渚の駅」たてやまの機能強化と魅力向上により、来館者のさらなる増加を図るとともに、観光情報の拠点として、旬の観光情報を提供し、市内観光の周遊性を高めることで、観光の振興と地域経済の活性化を推進します。	みなと課
「食のまちづくり」の推進による地域産業の活性化	地域内の流通システムを構築し、地元食材の活用や新たな特産加工品の開発・提供などを支援するとともに、「道の駅」機能を有する「食のまちづくり」拠点施設の整備を行います。 また、地産地消や6次産業化等、農林漁業振興活動に対し、「地域おこし協力隊」制度を活用することで、地域振興の新たな担い手の育成と地域への定着化を図ります。	農水産課 (食のまちづくり担当)

成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
「渚の駅」たてやま年間来館者数	14.8 万人	40 万人
地元野菜等需要量（家庭用）	1.18 億円	1.71 億円
地元野菜等需要量（業務用）	1.77 億円	2.56 億円
特産加工品開発数	—	5 品

